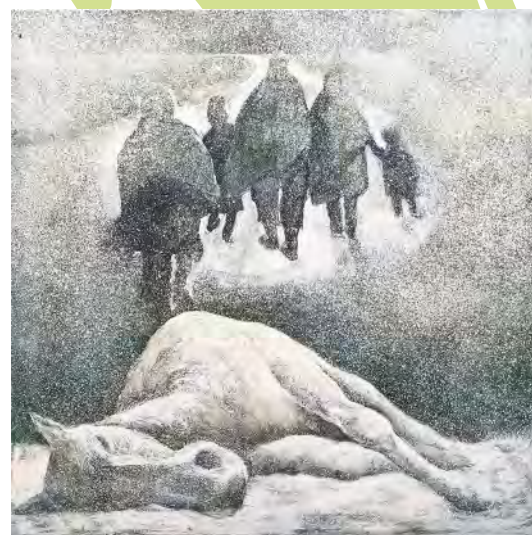




芝田米三馬 1967年



坂田 燦「横たわる(冬道)」2002年

テーマ展

馬と一緒に

画家とともに、^{ふるさと}谷山の暮らしとともに



海老原 喜之助「うまや」1936年頃

10/±
8

2022

12/金
23

開館時間/午前10時~午後4時半 休館日/水曜日

観覧料/一般500円 高校生300円 小・中学生200円

70歳以上・障害者手帳保持者100円

主催/一般財団法人三宅美術館

後援/鹿児島県 鹿児島市教育委員会 南日本新聞社

協力/鹿児島市文化芸術活動活性化補助金採択事業



三宅美術館

MIYAKE MUSEUM OF ART

馬と一緒に

画家とともに、
谷山の暮らしとともに

馬は不変の人気を持つ画題の一つであり、格別の思い出を持つ画家も少なくありません。海老原喜之助を画家に誘い、彼が生涯を通じて描いたのも馬でした。

馬が多くの作品に描かれた要因としては、やはり近年まで様々な場面でともに働く、人間の相棒的存在であったことがあげられるでしょう。

当館が立地する谷山地区でも、かつては農耕馬や荷馬車馬が盛んに飼育されていました。また明治時代には軍馬補充部(旧日本陸軍で使用する軍用馬の訓練所)が慈眼寺に設置され、市電の登場以前は鹿児島方面との往来に馬車が活躍するなど、特色ある馬との関わりを持っています。しかしながら、馬がいた頃の記憶は年月の経過と共に年々薄れつつあります。

本展では、海老原喜之助・山口薫・芝田米三・上橋薫・坂田燦ら馬と縁の深い画家の作品を通し、画家と馬との関わりや、馬に関する谷山の歴史・民俗を紹介します。

馬と人間との深い関わりを知り、画家と馬との結びつきを想像してみたいはいかがでしょうか。



海老原 喜之助「雪景」1930年



上橋 薫「馬」1971年



海老原 喜之助「漂流」1929年



JR : 指宿枕崎線「谷山駅」より徒歩8分
市電 : 「谷山電停」より徒歩15分
車 : 指宿スカイライン「谷山インター」より10分

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開館日程を変更する場合があります。

最新の情報はホームページでご確認ください。



三宅美術館

MIYAKE MUSEUM OF ART



鹿児島市谷山中央1丁目4319-4 Tel:099-266-0066